

基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保
背景と現状	<p>「長寿の里」、「子育て・子育ての町」として、子どもから高齢者まで、誰もが、豊かな自然環境と生活環境の中で、健康で安心して暮らすことができ、さらに、住環境、子育て・子育て環境、教育環境を充実することにより、「生活の質」の向上を図ります。</p> <p>そのため、町民の知恵と努力がまちづくりに活かされるとともに、町民同士の協力と支え合いにより、地域コミュニティが息づくまちづくりを進めます。</p> <p>また、「生活の質」を向上させることにより、子育て世代を中心に定住人口の確保に努めます。</p>

取組状況

	重点的方針	内容	実績の推移			備考
			H28	H29	H30	
1	子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり	<p>子どもの健やかな成長と安心して子育てができる体制の実現のため、子育て世代包括支援センターを設置し、健康診査や健康相談・訪問指導等、妊娠、出産から、育児期を通じた切れ目のない支援の充実を図ります。</p> <p>また、食育の推進や学童期・思春期における保健対策や小児医療費の助成等により、子育てしやすい環境整備を行います。</p> <p>さらに、コンパクトな町ならではの特徴を活かし、地域ぐるみで子育て支援体制を構築することで、すべての家庭が地域で安心して子育てできる環境整備を図ります。</p> <p>また、保育の質の向上と量の確保を図るとともに、子育てに関する講座の開催や相談を通じて、保護者がともに育ち育て合う環境づくりに取り組みます。</p>	B	B		
2	特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成	<p>児童生徒の確かな学力とたくましく生きるための体力の向上を柱に、子どもたちの生きる力を育むため、特色ある学校づくりによる教育内容の充実と、地域活動への参加等の体験活動を通じた地域社会との連携を推進します。</p> <p>また、すべての児童生徒が安心して学べる教育環境をさらに充実させるため、児童生徒一人ひとりの成長に寄り添ったきめ細かな支援を行うとともに、将来を見据えた学校教育、学校施設のあり方について検討を行います。</p>	A	A		
3	誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり	<p>高齢化の進展に伴い、高齢者の就労や活躍の場づくり、社会参加に向けた活動の支援について推進する必要があります。</p> <p>高齢者が地域の中でいきいきと暮らせる生活環境づくりを進めるとともに、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を構築し、推進を図ります。</p> <p>また、子どもや高齢者、障がい者等、誰もがいくつになっても地域で健やかに自立した生活を送ることができるよう、気軽に運動ができる環境づくりを進めるとともに、民間の力を活かした健康・体力づくりの機会をつくること等により、未病に対する取り組みを推進し、町民の健康・体力増進を図ります。</p>	B	A		

4	「このみやLife」の提案と発信	人口の減少傾向を抑制するために、「二宮町に住み続けたい」、「二宮町に戻ってきたい」、「二宮町に住んでみたい」と思ってもらえるようなライフスタイル「このみやLife」として確立し、そのプロモーション戦略を推進することで、今までとは違う新たな「人の流れ」を創出します。 「このみやLife」を確立するためには、新たな魅力を創出する、または既存の魅力を活かしながら更に魅力を高めることに取り組み、「住んで良かった」と実感してもらえよう、様々な世代の生活スタイル・ライフステージに応じた定住支援施策や移住支援施策の展開を図ります。	B	B	
5	地域コミュニティの醸成支援	少子高齢化の進展・働き方の変化等から、地域活動の人材が不足し、地域コミュニティの維持が難しくなっている地域が出てきています。 そのため、子育て世代や元気な高齢者等、全ての世代がコミュニティ活動に参加しやすく、安全・安心に住み続けられるコミュニティの醸成を支援します。	B	A	

町民満足度調査の結果

H30加重平均値 重要度3.97／満足度2.97

	設問内容	重要度		満足度		備考
		前回調査(H27)	H30	前回調査(H27)	H30	
	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり	4.17	4.12	3.17	3.02	
1	健康づくり支援の推進	3.84	3.91	3.11	3.16	
2	母子保健の充実	4.36	4.29	3.36	3.06	
3	教育・保育環境の充実		4.29		2.83	
4	子育て中の親への支援の充実		4.11		3.05	
5	子育てコミュニティづくりの推進	4.18	3.95	3.11	3.04	
6	学童保育所の充実	4.28	4.14	3.11	2.99	
	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成	4.32	4.03	3.10	2.96	
1	教育内容の向上	4.25	4.11	3.01	2.88	
2	支援を必要とする児童生徒への対応の充実		4.02		2.96	
3	教育相談の充実		3.93		2.95	
4	安全・安心な教育施設の整備	4.39	4.21	3.19	2.93	
5	地域と連動した教育活動の充実		3.89		3.07	
	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり	4.18	4.18	3.11	2.99	
1	地域福祉の充実	4.03	4.13	3.02	2.99	
2	地域包括ケアシステムの構築		4.35		2.89	
3	生きがいづくりと社会参加の促進	4.12	3.99	3.14	3.01	
4	健康づくりと介護予防の促進		4.10		3.05	
5	充実した介護サービスの提供	4.49	4.36	3.2	2.89	
6	健康づくり支援の推進	3.84	3.91	3.11	3.16	

7	地域医療の充実	4.42	4.43	3.08	2.97	
	1-4 「にのみやLife」の提案と発信	4.15	4.06	3.18	3.00	
1	健康づくり支援の推進	3.84	3.91	3.11	3.16	
2	母子保健の充実	4.36	4.29	3.36	3.06	
3	教育・保育環境の充実		4.29		2.83	
4	子育て中の親への支援の充実		4.11		3.05	
5	子育てコミュニティづくりの推進	4.18	3.95	3.11	3.04	
6	学童保育所の充実	4.28	4.14	3.11	2.99	
7	空家を活用した定住促進のための住まいの確保		4.01		2.72	
8	広報・広聴の充実	4.09	3.81	3.20	3.18	
	1-5 地域コミュニティの醸成支援	3.87	3.72	3.08	3.04	
1	官民協働によるまちづくり活動の推進		3.78		3.04	
2	コミュニティ活動支援	3.87	3.65	3.08	3.03	
【その他町民意見(日頃からの町民の反応や問い合わせについて)】						

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある	B
	説明	<p>重点施策の評価状況(平成29年度)は、「A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持」が3施策、「B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある」が2施策あり、前年度と比較し、2施策で評価を上げる結果となった。</p> <p>町民を対象とした町民満足度調査の重要度を前回値と比較したところ、「健康づくり支援の推進」「地域福祉の充実」「地域医療の充実」の項目で上昇しており、特に「地域福祉の充実」「地域医療の充実」は加重平均値を上回っている。</p> <p>満足度については、「健康づくり支援の推進」以外のすべての項目で下降している。</p> <p>また、重要度と満足度を比較すると、「重要度」が高いにもかかわらず、「満足度」が低い結果となっているのは、「教育・保育環境の充実」「教育内容の向上」「支援を必要とする児童生徒への対応の充実」「安全・安心な教育施設の整備」「地域包括ケアシステムの構築」「充実した介護サービスの提供」「空家を活用した定住促進のための住まいの確保」となっているため、優先的な改善が求められる。</p> <p>今後、少子高齢化が進展する中、住み慣れた豊かな自然と生活環境の中で、誰もが自分らしくいきいきと暮らすことが出来るよう、妊娠・出産・子育ての各段階の切れ目のない支援や、子どもの個性や発達状況に応じたきめ細やかな学校教育の充実を図るとともに、多様性を尊重し合える地域の中で、支え合いながら誰もが健やかに暮らせる環境づくりに努める。また、それらの生活を支えるために、欠かすことのできない重要な役割として、誰もが参加しやすいコミュニティの形成を促進し、様々な場面での多様な活動へとつなげていく。自分らしく生活できる「にのみやLife」の実現を目指し、様々な取り組みにより、町民一人ひとりの生活の質を維持・向上し、町の魅力ある暮らしを強く発信していくことで、定住人口の確保に結びつける。</p>

外部評価[まちづくり評価委員会]	
A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある	
意見等	

町の最終方針[庁内評価委員会]	
A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある	
方向性	

政策評価シート(中期基本計画期間)

基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
背景と現状	<p>自然環境、歴史・文化を保全・育成し、都会に近い身近な自然環境と田舎の風景、穏やかな住環境を活かした観光を振興し、農業と漁業の振興を図ります。</p> <p>また、地域の素材を大切に商品づくり等による商工業振興や、高齢者世代や子育て世代のニーズに応えた商工業振興を進めます。</p> <p>さらに、町の特性を活かした農業、漁業、商工業と観光の有機的な連携と、町民との連携・協力により、町の活性化を図ります。</p>

取組状況

	重点的方針	内容	実績の推移			備考
			H28	H29	H30	
1	二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	<p>町には多様な自然環境や歴史・文化等の地域資源が多数存在しており、その環境を暮らしの中に取り込むことで、住環境の魅力が形成されています。</p> <p>この魅力を町内外を問わず多くの人々に実感してもらうため、町の自然や歴史・文化等に触れられ、体験できる機会づくりを進めます。また、進学や就職等により町外へ転出しても、将来、生まれ育った二宮町に戻って子育てしたいと思ってもらえるよう、子どもたちに対して二宮町の自然や歴史、文化に触れられる機会づくりを進めます。</p> <p>観光で町を訪れた人が二宮に来ると「面白い」、「楽しい」と感じてもらい、「いずれは二宮町に住んでみたい」と思ってもらえるよう、観光情報の提供に努めつつ、「にのみやLife」の提案を推進していきます。</p> <p>さらに、ホールや図書館等を兼ね備えた生涯学習センター・ラディアンは町の文化・芸術活動の拠点であることから、多様な世代が集い、学習を深め、交流する場として、町内外への発信力を強化します。</p>	B	B	/	
2	子育てと仕事の両立の推進	<p>個人の価値観や生活スタイルに合わせ、誰もが多様な働き方を選択し、子育て世代のワーク・ライフ・バランスを実現するために、長時間労働といった働き方の改善や女性の就業継続・支援等を目指して、家庭や企業に対する意識啓発を推進します。</p>	B	B	/	
3	地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり	<p>町内の産業の活性化を図るため、商工会等と連携し、起業・開業支援を行います。</p>	B	B	/	

4	身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出	元気な高齢者や資格を持った方等が身近な場所で働くことができるような環境づくりを進めます。 また、農業については、町の主要産業の1つですが、後継者不足等により担い手不足の状況にあります。そのため、就農希望者等に対する農地のあっせんや就農相談等総合的な支援を図るとともに、特産物の普及・奨励等により食の地産地消を進めます。	B	B	
5	町の環境を活かした再生可能エネルギーの地産地消等の可能性検討	豊かな自然環境に恵まれている二宮町において、町内の地形等を活かした再生可能エネルギー導入の可能性を含め、計画を策定します。	D	A	

町民満足度調査の結果

H30加重平均値 重要度3.97／満足度2.97

	設問内容	重要度		満足度		備考
		前回調査(H27)	H30	前回調査(H27)	H30	
	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	3.84	3.74	3.15	3.12	
1	生涯学習推進の仕組みづくり		3.64		3.04	
2	家庭・地域の教育力の向上		3.80		2.96	
3	地域スポーツの振興	3.58	3.44	3.19	3.12	
4	スポーツ活動支援の充実	3.60	3.39	3.07	3.10	
5	文化・芸術の振興	3.73	3.84	3.2	3.34	
6	町の歴史文化の継承		3.67		3.17	
7	緑地の保全と緑化の促進	4.14	4.00	3.32	3.32	
8	自然環境と生物多様性の保全	4.15	3.95	3.21	3.19	
9	水産振興の推進	3.80	3.85	2.98	2.83	
10	観光情報の発信の充実		3.87		3.23	
11	コミュニティ活動支援	3.87	3.65	3.08	3.03	
	2-2 子育てと仕事の両立の推進	4.07	4.04	3.11	2.98	
1	教育・保育環境の充実		4.29		2.83	
2	子育て中の親への支援の充実		4.11		3.05	
3	子育てコミュニティづくりの推進	4.18	3.95	3.11	3.04	
4	学童保育所の充実	4.28	4.14	3.11	2.99	
5	人権・平和の推進	3.75	3.71	3.12	2.98	
	2-3 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり	3.79	3.81	2.82	2.84	
1	商工業の振興	3.86	3.89	2.79	2.83	
2	起業支援	3.72	3.72	2.84	2.84	

	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出	3.80	3.80	2.98	2.94	
1	農林業振興の推進	3.75	3.82	2.99	2.89	
2	水産振興の推進	3.80	3.85	2.98	2.83	
3	特産品の普及と二宮ブランドとの連携	3.82	3.81	3.04	3.03	
4	二宮ブランドの普及・促進	3.81	3.70	2.92	2.99	
	2-5 町の環境を活かした再生可能エネルギーの地産地消等の可能性検討	4.04	3.93	2.92	2.93	
1	低炭素社会の形成	4.04	3.93	2.92	2.93	
【その他町民意見(日頃からの町民の反応や問い合わせについて)】						

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある	B
	説明	<p>重点施策の評価状況(平成29年度)は、「A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持」が1施策、「B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある」が4施策あり、前年度と比較し、1施策で評価を上げる結果となった。</p> <p>町民を対象とした町民満足度調査の重要度を前回値と比較したところ、「文化・芸術の振興」「水産振興の推進」「商工業の振興」「農林業振興の推進」の項目で上昇しているが、いずれも加重平均値は下回っている。</p> <p>満足度については、「スポーツ活動支援の充実」「文化・芸術の振興」「緑地の保全と緑化の促進」「商工業の振興」「起業支援」「二宮ブランドの普及・促進」「低炭素社会の形成」以外のすべての項目で下降している。</p> <p>また、重要度と満足度を比較すると、「重要度」が高いにも関わらず、「満足度」が低い結果となっているのは、「教育・保育環境の充実」となっているため、優先的な改善が求められる。</p> <p>今後、低炭素社会の形成や自然環境の保全などの取り組みにより、町にある豊かな自然を、次世代に引き継ぐ環境づくりに努めるとともに、自然環境や歴史・文化資源等を活用し、吾妻山や生涯学習センター・ラディアン周辺を中心に、魅力的な交流拠点の形成を進める。また、そうした機能的で魅力ある基盤の整備により、多くの人を呼び込み、町の特性を生かした産業や特産品にも触れることにより、町での生活に魅力を感じてもらい、さらなるにぎわいの創出へとつながるように事業展開する必要がある。</p>

外部評価[まちづくり評価委員会]	
A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある	
意見等	

町の最終方針[庁内評価委員会]	
A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある	
方向性	

政策評価シート(中期基本計画期間)

基本構想	交通環境と防災対策の向上
背景と現状	<p>便利でコンパクトな町という特性を活かして、町民にとって身近で利用しやすい公共施設の充実と、駅前広場や主要な道路の改良、公共交通の確保等により、交通環境の充実を図ります。</p> <p>また、喫緊の課題である大震災等の災害に備えるとともに、家庭、地域で町民同士の協力と支え合いによる減災文化が根付くまちづくりを進めます。</p>

取組状況

重点的方針	内容	実績の推移			備考
		H28	H29	H30	
1 災害や犯罪に備える地域づくり	<p>町民が安心して住み続けられる町にするためには、災害時でも安全性を確保できるまちづくりが重要となります。</p> <p>大規模な震災をはじめ、台風による高波被害、ゲリラ豪雨による都市型水害等の災害に対応するため、町民と協力・連携した防災・減災まちづくりの推進を図るとともに、消防・救急活動体制の強化を図ります。</p> <p>また、地域による防犯体制の充実や交通安全対策等、安全・安心なまちづくりを推進し、全ての町民が危険や不安を感じることはないような体制づくりに努めます。</p>	A	A		
2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	<p>高度経済成長に伴い、昭和40年代以降、多くの公共施設を整備してきましたが、現在では老朽化が進み、また、人口やその構成が変化していることから、公共施設のあり方について、見直す必要があります。</p> <p>そこで、公共施設の総合的なマネジメントにより、施設の適正な配置と維持管理を推進するとともに、戦略的な有効利用を図ります。</p> <p>また、コンパクトな町域に市街地を形成している町の特徴を活かしたまちづくりを進めるため、計画的な土地利用の誘導を図り、誰もが移動手段を確保できるような、交通網の形成を図ります。</p>	A	A		

町民満足度調査の結果

H30加重平均値 重要度3.97／満足度2.97

設問内容	重要度		満足度		備考
	前回調査(H27)	H30	前回調査(H27)	H30	
3-1 災害や犯罪に備える地域づくり	4.20	4.02	3.22	3.12	
1 消防・救急活動の充実強化	4.45	4.30	3.53	3.49	
2 交通安全・防犯施設の充実強化	4.40	4.25	3.37	3.18	
3 消費生活	3.81	3.72	3.09	3.02	
4 地域の安全力の向上	4.11	3.77	3.38	3.10	
5 自助活動の推進	4.16	4.03	3.12	3.04	
6 共助活動の推進	4.08	3.93	3.14	3.08	
7 公助活動の危機管理体制の強化	4.42	4.13	2.93	2.93	

3-2	公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	3.99	4.03	2.91	2.81	
1	適切な土地利用の推進・快適な住環境の整備誘導	3.95	4.19	2.9	2.61	
2	交流ゾーンの検討	3.59	3.53	2.93	2.93	
3	道路の整備と管理	4.29	4.31	2.82	2.67	
4	地域交通の確保	4.21	4.24	2.83	2.77	
5	公園・広場の充実と適切な管理運営	4.06	3.96	2.96	2.80	
6	安全で効率的な情報システム運用	3.86	4.05	3.01	2.97	
7	公共施設の適正な維持管理・再編		3.90		2.93	
【その他町民意見(日頃からの町民の反応や問い合わせについて)】						

総合評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>		A
	説明	<p>重点施策の評価状況(平成29年度)は、「A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持」が2施策、前年度と比較し、同じ評価結果となった。 町民を対象とした町民満足度調査の重要度を前回値と比較したところ、「適切な土地利用の推進・快適な住環境の整備誘導」「道路の整備と管理」「地域交通の確保」「安全で効率的なシステム運用」の項目で上昇しており、いずれも加重平均値を上回っている。 満足度については、「公助活動の危機管理体制の強化」「交流ゾーンの検討」以外のすべての項目で下降している。 また、重要度と満足度を比較すると、「重要度」が高いにも関わらず、「満足度」が低い結果となっているのは、「公助活動の危機管理体制の強化」「適切な土地利用の推進・快適な住環境の整備誘導」「道路の整備と管理」「地域交通の確保」となっているため、優先的な改善が求められる。 今後、都市計画マスタープランや公共施設再配置・町有地有効活用実施計画に基づいて、適切な土地利用やインフラ等の整備に努め、公共施設については、適切な配置に向けた再編を進め、町民にとって安全・安心な利便性の高い拠点を形成する。また、誰もが安全で安心して快適に暮らすことができるように、災害時における自助・共助・公助のバランスのとれた防災力・減災力の向上を図るとともに、住民の主体的な関与と地域の理解を得ながら、今後求められる地域交通の確保に努める必要がある。</p>	

外部評価[まちづくり評価委員会]		
<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>		
意見等		

町の最終方針[庁内評価委員会]		
<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>		
方向性		

政策評価シート(中期基本計画期間)

基本構想	戦略的行政運営
背景と現状	<p>自治体財政が厳しい時代が続くものと予想されることから計画的な行財政運営を進めます。</p> <p>時代状況の変化や町民の要請に応えられる行政を目指して、柔軟で機動的な自治体経営、スリムな行政、他の自治体との連携による広域行政、将来像を実現するための戦略的なまちづくり、広報広聴機能の充実を進めます。</p> <p>また、「自治体経営の力」を向上させるため、まちづくり行政を担う職員の育成を進めます。</p>

取組状況

	重点の方針	内容	実績の推移			備考
			H28	H29	H30	
1	職員のスキルアップによる運営能力の向上	窓口等における町民への職員の対応の向上や、施策に関連する専門知識の蓄積等、業務に関する能力の向上を図るとともに、公平で効率的かつ効果的な施策・事業の運営能力を身につけられるよう、体系的・段階的な人材育成の方針に基づき計画的な人材育成を行います。	A	A	/	
2	戦略的な自治体運営及びスリムな財政運営の推進	<p>戦略的な自治体運営を推進するため、長期的な視点に立ち、周辺自治体や町民、民間等との連携や、施策や事業等の柔軟な運用を行います。</p> <p>また、事業及び施策について、外部評価も含めた評価制度を活用し、効率的・効果的な運用を進めるため、事業費を含めた見直しや、統廃合等を進めます。</p>	B	B	/	

町民満足度調査の結果

H30加重平均値 重要度3.97／満足度2.97

	設問内容	重要度		満足度		備考
		前回調査(H27)	H30	前回調査(H27)	H30	
	4-1 職員のスキルアップによる運営能力の向上	3.73	4.09	2.96	2.78	
1	職員の能力の向上	3.73	4.09	2.96	2.78	
	4-2 戦略的な自治体運営及びスリムな財政運営の推進	4.07	4.00	2.84	2.82	
1	計画的な行財政改革の促進	4.01	4.02	2.88	2.82	
2	安定的な財政基盤の確立	4.20	4.14	2.74	2.76	
3	広域連携の推進	3.99	3.83	2.91	2.88	

【その他町民意見(日頃からの町民の反応や問い合わせについて)】

総合評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>	B
	<p>説明</p> <p>重点施策の評価状況(平成29年度)は、「A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持」が1施策、「B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある」が1施策あり、前年度と比較し、同じ評価結果となった。</p> <p>町民を対象とした町民満足度調査の重要度を前回値と比較したところ、「職員の能力の向上」「計画的な行財政改革の促進」の項目で上昇しており、いずれも加重平均値を上回っている。</p> <p>満足度については、「安定的な財政基盤の確立」以外のすべての項目で下降している。</p> <p>また、重要度と満足度を比較すると、「重要度」が高いにも関わらず、「満足度」が低い結果となっているのは、「職員の能力の向上」「計画的な行財政改革の促進」「安定的な財政基盤の確立」となっているため、優先的な改善が求められる。</p> <p>今後、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、厳しい財政状況が見込まれるため、行政改革大綱に基づき、着実に推進することで、組織体制の強化と安定的な財政基盤の確立へとつなげ、また推進にあたり、町民とともに考え、行動する向上意識を持った職員の育成を図る。</p>	

外部評価[まちづくり評価委員会]		
	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>	
意見等		

町の最終方針[庁内評価委員会]		
	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>	
方向性		